

## 兵庫県のグンバイムシ (2)

高橋 寿郎

### 10. *Stephanitis fasciicarina* Takeya, 1931 クスグンバイ

武谷 直氏が九州産 Akama (Chikuzen) ならびに Shimonoseki, Honshu 産をタイプに記載された種である。図もついている。宮本博士の原色図説もある(1965)。Lee により5令幼虫と♂交尾器の図説がある(1969)。原記載の時点で寄主植物としてタブノキ、クスノキを掲げられ宮本博士はさらにシロダモを加えクス科植物に寄生するとされている。

兵庫県下でも割合と採集出来る種である。

産地：洲本市三熊山 [友国, 1973]。三原郡福良 [友国, 1973]。神戸市烏原 (lex., 30-VIII-1972, lex., 19-IX-1972, lex., 18-X-1971, lex., 24-VII-1975, lex., 16-VII-1982, lex., 9-VII-1984, lex., 24-X-1985, lex., 11-IX-1985)。多可郡烏羽 (lex., 6-IX-1975)。養父郡関宮町 [Takeya, 1963]。

### 11. *Stephanitis nashi* Esaki et Takeya, 1931 ナシグンバイ

江崎悌三博士と武谷 直氏により新種記載された種である(1931)。江崎博士は本州、四国及び九州に最も多くナシ、サクラ等の葉裏に群棲し、その葉を枯死せしめる著名な害虫であると記されている(1950)。Lee は1~5令幼虫と♂交尾器を図説している(1969)。武谷氏は上記以外寄主植物としてアンズ、モモ、カイドウ、ボケ、ズミ、ヤマブキ、サンザシ等を掲げておられる(1951)。

県下での記録が思った程ない。もっと広く分布している種だと考えられる。

産地：神戸市烏原 (lex., 26-IV-1985)。Harima [Takeya, 1963]。小野市山田 (lex., 23-VI-1987)。氷上郡 [山本, 1954, 1958]。豊岡市九日市 [高橋, 1975]

### 12. *Stephanitis pyrioides* (Scott, 1874) ツツジグンバイ

G. Lewis の採集品に基いて Scott が *Tingis* 属の種として新種記載された種である (詳しいデータはついていない)。

Horváth は1905年 *Stephanitis azaleae* と改稱しているが之は承服出来ない。ツツジを害するものが *S. pyrioides* Scott なることは W. E. China に依頼 British Museum に存する Scott のタイ

ブと比較して貰って確かめたと江崎悌三、武谷 直両氏は述べておられる(1931)。

江崎悌三博士は図説をされ(1950)その中で“ツツジ、サツキ等の葉裏に群棲しその葉を黄化させる著名な害虫である。北海道、本州、四国及び九州に頗る普通である”とされている。宮本正一博士の原色図説もある(1965)。さらに Lee により1~5令幼虫及び♂交尾器の図説がある(1969)。

兵庫県下でも大変たくさん見られる種である。

産地：西宮市船坂(lex., 5-VI-1987)。神戸市烏原(lex., 20-VI-1982, lex.; 22-VII-1982, 5exs., 23-VII-1982, lex., 16-IX-1982, lex., 5-X-1982, lex., 24-X-1985, 3exs., 4-IX-1986, 2exs., 11-IX-1986)、逢山峡(lex., 11-VII-1987)。Harima Prov. [Takeya, 1951]。三木市口吉川町(lex., 14-VII-1986, 3exs., 4-IX-1986, 5exs., 3-X-1986)、笹原(2exs., 11-IX-1986, lex., 26-IX-1986)。小野市山田(4exs., 19-VI-1987, . lex., 23-VI-1987)。加東郡社町三草(lex., 17-V-1987, lex., 26-VI-1987)。龍野市神岡(lex., 21-VII-1988)。養父郡関宮町[R. Morimoto leg., Takeya, 1963]。

### 13. *Stephanitis swensoni* Drake, 1948 シキミグンバイ

本種は九州産で Drake が記載した種である(1948)。武谷氏は詳しい記載をされ(1953)、同氏が九州から記載した *S. shirozui* Takeya を本種のシノニムにされている。

宮本博士の原色図説があり(1965)、寄主植物としてシキミだけが知られているとのこと。Lee は5令幼虫と♂交尾器を図説している(1969)。

兵庫県下からは僅か1頭しか採集していない。恐らくこれは調査不十分からだと考えられる。

産地：神戸市六甲山(lex., 23-VI-1968)

### 14. *Stephanitis takeyai* Drake et Maa, 1953 トサカグンバイ

*Stephanitis globulifera* Matsumura なる学名を用いられて来た種は本種のシノニムとなる。

宮本博士(1965)、日浦氏(1977)の図説がある。分布も広い(本州、四国、九州、屋久島、奄美大島、北米)。

武谷氏は多くの産地を記録されている(1963)と同時に寄生する樹木も多く記しておられる(シキミ、アオモジ、クロモジ、ケクロモジ、シロモジ、クスノキ、ダンコバイ、ホツツジ、アセビ、カキ、エゴノキ)。特にアセビ、ネジキに多いとされている。前胸背の囊状隆起は大きく頭部をおおう面白い格好である。

Lee は1~5令幼虫及び♂交尾器を図説している(1969)。

兵庫県下にも広く分布している種である。

産地：西宮市船坂 (lex., 26-V-1987)。神戸市六甲山 [Takeya, 1963], 烏原 (lex., 17-V-1979, lex., 9-VII-1984)、箕谷 (3exs., 4-X-1989)。美囊郡吉川町奥山 (2exs., 10-V-1986)。加東郡社町三草 (lex., 22-V-1989, lex., 1-VI-1989)。多可郡鳥羽 (lex., 5-VII-1975)。相生市三濃山 (6exs., 20-V-1973)。佐用郡 [井口, 1808]。養父郡関宮町 [Takeya, 1963]

15. *Galeatus spinifrons* (Fallén, 1807) キクグンバイ

割合独特な形をしているので同定に困難は無い。江崎博士 (1950)、宮本博士 (1965)、日浦氏 (1977) といづれにも図説されている。また Lee は 4, 5 令幼虫と♂交尾器を図説している (1969)。

本州、四国、九州、台湾、朝鮮、シベリア、ヨーロッパと広く分布している。ヨモギ、ヨメナ類に多いがキクを害することがあると。

県下の記録はそれ程知られていない。

産地：宝塚市武田尾 [日浦, 1977]。Prov. Harima [Takeya, 1951]。水上郡 [山本, 1954, 1958]。城崎郡日高町奈佐路 (3exs., 19-VI-1986)

16. *Cochlochila lewisi* (Scott, 1880) エグリグンバイ

Scott が日本産で *Leptodictya* 属の種として記載したものである (1880)。G. Lewis の採集品なので産地は書いてないが長崎か兵庫なのかも知れない。本種も割合独特の形態をしている。江崎博士 (1950。学名は *Cochlochila conchata* Matsumura となっている)、宮本博士 (1965。 *C. conchata* Mats. が本種のシノニムであるとされている) の図説がある。宮本博士によると山地の水際に生えたオタカラコウの葉裏に多いがフキにつくこともあるとのこと。Lee は 1, 4, 5 令幼虫と♂交尾器を図説している (1969)。

兵庫県下の記録が次のとおりある。

産地：Prov. Harima [Takeya, 1951]。水上郡 [山本, 1954, 1958]。

17. *Xnotingis hoytona* Drake, 1948 クチナガグンバイ

Drake は日本からの標本で産地を記さずに記載をしたが武谷氏は井口宗平氏の播磨産標本 (22・

IV・1909)を記録された(1951)。その後同氏は紀伊黒沢山及び四国伊予杉立から1頭ずつ記録された(1953。図も示された)。宮武氏も愛媛県黒滝を記録された(1953)。

分布は本州、九州となっているがどのような産出状況のグンバイムシか良くわからなかった。兵庫県下からの産地からすればそれ程すくないグンバイムシでないのかもしれない。

産地：神戸市烏原 (lex., 14-V-1981, lex., 25-VI-1983)、谷上 (lex., 20-IV-1981)、伊川谷前開 (lex., 13-V-1988, lex., 7-VI-1988)。Prov, Harima [Takeya, 1951]

〈参考文献〉

参考文献は大変多い。此処には筆者所有のもので本報文作製にあたり直接参考にしたもののみを掲げた。

足立輝一、1934。資料二三。昆虫界 2(10):439-440。

Drake, C., 1923. Some Tingitidae from Japan (Hemiptera). Ohio Journal of Science. 23:102-106

Drake, C., 1948. Some Tingitidae from China, Japan and India. Notes d'Entomologie chinoise 12:1-9。

江崎悌三、1931。蟲癭を形成するグンバイムシの一種に就いて。九州帝国大学農学部学芸雑誌 4:244-253。

江崎悌三、1950。日本昆虫図鑑(北隆館)

江崎悌三・武谷直、1931。ナシグンバイの学名。むし 4(2):51-59, 3pls.

Esaki, T. and Takeya, C., 1933. A new Tingitid from Formosa (Hemiptera:Tingitidae). Mushi 6:1-3.

平嶋義宏監修・九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター共同編集、1989。日本産昆虫総目録 I. (p.166-168)。

日浦勇、1977。原色日本昆虫図鑑(下)。(保育社)

井口宗平、1908。兵庫県佐用郡産昆虫目録(承前)。昆虫世界 12(132):337。

石原保、1971。動物系統分類学7(下B)。(中山書店)

Lee, C. E., 1969. Morphological and phylogenetic studies on the larve and male genitalia of the East Asiatic Tingidae (Heteroptera). Jour. Fac. Agric. Kyushu Univ. 15(2):137-256.

宮本正一、1965。原色昆虫大図鑑, 第3巻。(北隆館)

宮武睦夫、1953。四国産グンバイムシ科数種。あげは (6):15。

Scott, J., 1874. On a collection of Hemiptera Heteroptera from Japan—Descriptions of various genera and species. *Ann. Mag. Nat. Hist. ser. 4*:14:289-304, 360-365, 426-455.

Scott, J., 1880. On a collection of Hemiptera from Japan. *Trans. Ent. Soc. London*, 4:3 05-317.

高橋 匡, 1975. 豊岡高等学校昆虫標本目録 (第1, 2報). 兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊.

高橋寿郎, 1974. 兵庫県の異翅亜目 (2). きべりはむし 3(1):1-2.

Takeya, C., 1930. On a little-known Tingitid, *Monanthia* (Baba), occurring in Japan (Hem. Heter). *Mushi* 3(2):67-72.

武谷 直, 1930. トサカグンバイの寄主植物. むし 3(2):72.

Takeya, C., 1931. Some Tingitidae of the Japanese Empire. *Mushi* 4:65-84, Tab, 7-9.

Takeya, C., 1932. Some Corean lace-bugs (Hemiptera, Tingitidae). *Mushi* 5:8-13. Tab. 1.

Takeya, C., 1933. New or Little-Known lace-bugs from Japan. Corean and Formosa (Hemiptera:Tingitidae). *Mushi* 6:32-38

Takeya, C., 1951. A Tentative List of the Tingidae of Japan and her adjacent territories (Hemiptera). *Kurume Univ. Jour. (Nat. Sci.)* N(1):5-28.

Takeya, C., 1953. Notes on the Tingidae of Shikoku, Japan. (Hemiptera). *Trans. Shikoku Ent. Soc.* 3(7):167-176, pl. 6.

Takeya, C., 1963. Taxonomic Revision of the Tingidae of Japan, Korea, The Ryukyus and Formosa Part. I. (Hemiptera). *Mushi* 36(5):41-75.

Takeya, C., 1963. Taxonomic Revision of the Tingidae of Japan, Korea, The Rynkyus and Formosa Part. 2 (Hemiptera). *Mushi* 37(4):27-52.

Tomokuni, M., 1972. Japanese Species of the Genus *Acalypta* (Hemiptera:Tingidae). *Trans. Shikoku Ent. Soc.* 11(3):87-91.

友国雅章, 1973. 本四架橋ルートの島々の昆虫相. 本州四国連絡架橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書. 学術調査編 (動物部門), p.162.

友国雅章, 1978. グンバイムシの生活. *インセクタリウム* 15(3):4-8.

山本義丸, 1954. 兵庫県丹波地方の異翅類目録. *兵庫生物* 2(4/5):216-218.

山本義丸, 1958. 兵庫県氷上郡昆虫目録. 氷上の自然 第3集 p.116.

Uhler, P. R., 1896. Summary of the Hemiptera of Japan, presentend to the U. S. National Museum by Prof. Mitsukuri. *Proceedings of the U. S. National Museum* 19:255-297.

(V-1990).